

こきょう 故郷の味は海をこえて

—「^{なんみん}難民」として日本に生きる—

安田菜津紀／著・写真 ポプラ社 30



ビリヤニ、ラペットウ、ダルバート…これらが何だかわかりますか？それぞれバングラデシュ、ミャンマー、ネパールの家庭で食べられているものです。残念ながらこの味を故郷で食べることができず、日本で食べている人たちがいます。「難民」と呼ばれる人たちです。

「難民」って何？どうして日本にやって来たの？色々考えさせられる一冊です。

図書館に来てね！！

- ★中央図書館★ 電話 042-564-2454
中央 3-930(市役所南側)
水・木・金 午前10時～午後7時
月・土・日 午前10時～午後5時(火・第三木は休み)
- ★桜が丘図書館★ 電話 042-567-2231
桜が丘 3-44-13(桜が丘市民センター2階)
午前10時～午後5時(火・第三木は休み)
- ★清原図書館★ 電話 042-564-2944
清原 4-1(清原市民センター内)
午前10時～午後5時(月・火・第三木は休み)



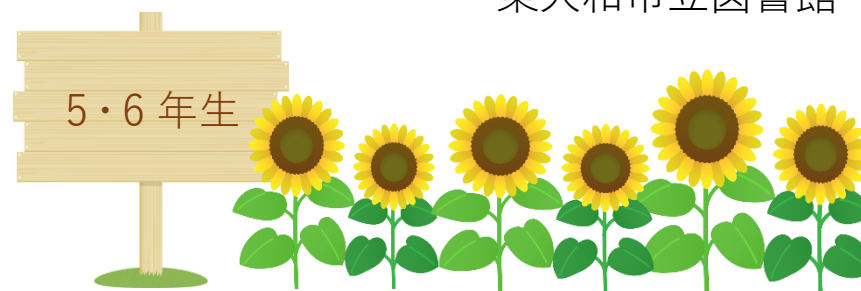
東大和市立図書館 HP <https://www.lib.higashiyamato.tokyo.jp>

2020年 夏



この本読んでみない？

東大和市立図書館



まじょ しずかな魔女

市川朔久子／作 岩崎書店 911

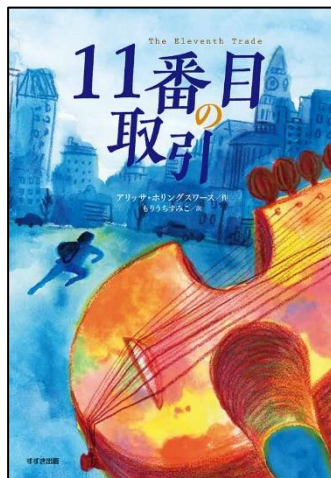
学校に行かれなくなった草子は、図書館に通うようになる。そこで出会った司書の深津さんから「しずかな子は、魔女に向いてる。」という言葉をお守りとして渡された。この意味を知りたくなった草子は、深津さんに、この言葉の出てくる本を探してほしいと頼む。やがて深津さんから渡されたのは「しずかな魔女」と書かれた紙の束。それは二人の少女のひと夏の物語だった。



11番目の取引

アリッサ・ホリングスワース／作 もりうちすみこ／訳
すずき出版 93ホ

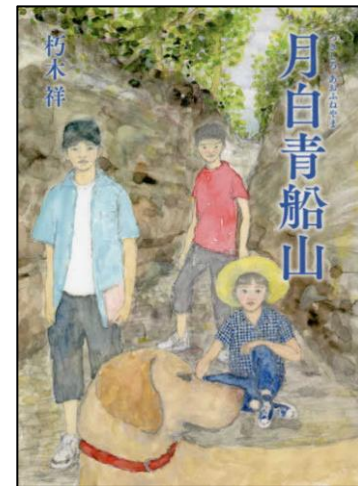
祖父と共にアフガニスタンからアメリカに渡った難民の少年サミは、大事に持っていたルバーブという楽器を盗まれた。ところがそのルバーブがオークションサイトに出ていることを知り、取り戻そうとする。しかしそれには700ドルが必要だと言われ、サミは友達の助けを借りて、自分の持っているものと物々交換をしながら700ドルをかせごうとするが…。



つきしろあおふねやま 月白青山

くつきしろう 朽木祥／作 岩波書店 91ク

夏休み、鎌倉の大叔父さんの家に預けられた兵吾と主税の兄弟。ある日地元の少女静音と一緒に切り通しで遊んでいるうちに、見知らぬ谷に迷いこんでしまった。星月谷と呼ばれるその谷で出会った老人から、行方がわからなくなった瑠璃を見つけたいと頼まれ、三人は鎌倉の歴史や伝説を調べながら、謎を解いていく。



ほくさい ひろしげ 北斎と広重
うきよえ 浮世絵を変えた江戸の人気画家
(ジュニア版 もっと知りたい世界の美術 ①)

金子信久／監修 東京美術 70



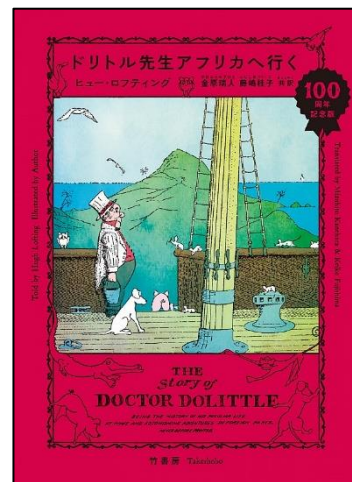
日本を代表する浮世絵師、葛飾北斎と歌川ひろしげ 広重。二人の生涯や作品をユニークに紹介しています。例えば同じ場所を描いた二人の作品を並べて紹介したり、年齢によって変化してきた波の描き方を一度に見ることができたり。その他クイズや工作もあり、色々な角度から楽しむことができるよ。

シリーズでは外国の画家も取り上げています。



ドリトル先生アフリカへ行く (100周年記念版)

ヒュー・ロフティング／著 金原瑞人・藤嶋桂子／共訳
竹書房 93口



動物たちに囲まれて暮らすドリトル先生は、動物の言葉がわかるお医者さん。その評判は世界中に知れわたっていた。

ある日、アフリカのサルたちの間で病気が流行っていることを知り、ドリトル先生は動物たちと一緒に、船でアフリカへと向かう冒険の旅に出かけていく。

100年前に書かれた作品ですが、今読んでもおもしろい！シリーズあり。